

# 活用場面の類推による学習転移の促進を目指した 内省支援ツールの再設計 - 手術室看護師を対象として -

Redesign of reflection support tool for operation room nurses aimed at promotion of transfer by analogies

政岡祐輝, 都竹茂樹, 鈴木克明, 平岡齊士

Yuuki MASAOKA, Shigeki TSUZUKU, Katsuaki SUZUKI, Naoshi HIRAOKA

熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻

Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University

＜あらまし＞看護師が良質な内省活動を展開することと、その能力の形成を支援していくことは、最良の患者アウトカムを保証していく上で必要不可欠である。経験学習に存在する問題を踏まえ、手術室看護師を対象に限られた経験を基に臨床現場から離れた場での内省支援を行うため、記述式の内省支援ツールを開発・導入している。本稿では、その内省支援ツールの問題点としてあがつた「学びの実践への転移」に着目し、その改善策として、リンゼイ&バーガーの経験的教授普遍的原理で示される内省のプロセスを参考に「活用場面を考える」という類推を取り入れ、内省支援ツールを再設計した。

＜キーワード＞ 内省、経験的教授、類推、転移、スキーマ、看護

## 1.はじめに

医療現場は看護実践能力の形成途上にある初心者レベルの看護師が、重症患者のケアを行い、その中の失敗やミスを経験して試行錯誤しながら、看護についての理解を深めていくという学習は、当然医療安全上の問題がある。また、学んでもらいたい事象に遭遇する機会が比較的限られている、教えることを専門に学んでいないものが教育活動に携わっている、医療現場では患者の治療やケアが優先されるために十分な内省やその支援にあてる時間の確保が難しいといった問題がある（政岡 2015）。以上のようなことを踏まえ、筆者はこれまでに手術室配属となった新人看護師を対象とし、限られた経験を基に臨床現場から離れた場での内省支援を行うため、記述式の内省支援ツールを開発・導入してきた（表1）。

内省支援ツールを使用する中で、「気づきや理解が促された」、「自分の問題点が明確となり分析しやすくなった」等の効果がみられた。一方で、「同じようなミスを繰り返し、類似事例に学びを活かすことができていない」といった学習転移に関する問題も生じていた。

## 2.研究目的

現在導入している内省支援ツールの問題点である学習転移の改善策として、活用場面を類推するという方法を用いた内省支援ツールの再設計案を提案することである。

## 3.内省支援ツールの改善策の検討

### 3.1 現状の内省支援ツール

昨年度まで、手術室配属の新人看護師に対し、表1のような記述式の内省支援ツールを作成・配布し使用している。ツールはGibbsのリフレクティブ・サイクルを参考に作成している。

記載・提出（学習者自身のポートフォリオに挟む）のタイミングは、5月～8月は1週間ごと、9月～2月は月末としていた。

表1：現状の内省支援ツール

- 1.今週/今月の経験したことは何ですか？何が印象に残っていますか？
- 2.今週/今月の自身の実践を振り返って、どう感じましたか？
- 3.今週/今月の実践の中で、上手くいったところと上手くいかなかったところは何ですか？
- 4.今週/今月受けた指導内容を思い出し列挙してください。
  - 5.1.～4.を踏まえ、自分のどんなことが足りないと考えますか？その原因を分析してみてください。
  - 5.2.で考えた原因（課題）を解決し、今月の目標を達成させるために、取り組むべきことを具体的に考え記載してください。

### 3.2 問題点の分析と改善策の検討

現状のツールによる内省的学習が実践への転

移につながらない原因として、他の場面や事例に対して「このようにしたら良い」「このようになるだろう」という認識を生じるスキーマを形成する学習となっていないことが原因の1つと考えられる。この問題点を解決するために、本研究では、経験的教授の普遍的原理の原理3で示される内省のプロセス（リンゼイ・バーガー2016）を参考に改善策を検討することにした（表2）。

表2：経験的教授普遍的原理3—内省プロセス

何が起こったのか？
なぜそれが起こったのか？
何を私は学んだのか？
この知識を将来の経験にどのように適用できるだろうか？

#### 4. 内省支援ツールの再設計

##### 4.1 内省支援ツールの再設計案

経験的教授普遍的原理3—内省プロセスで示されている問い合わせ「この知識を将来の経験にどのように適用できるだろうか？」を参考に、現状のツールでの内省プロセスに、学んだことの「今後の活用場面を考える」という類推を学習方略として加え表1の項目5を拡張する再設計を行った（表3項目6～8）

表3の項目6～8を通して、他の場面や事例に対して「このようにしたら良い」「このようになるだろう」という認識的なスキーマの形成を目指すが、何題か例題を比較させ、それらの構造的な類似性に気付かせる方法ではない。そのため、学びとして記述した内容の本質や構造が理解できていないことも想定される。その結果、考えた記述した場面に類似性がなく学びが活かせる場面となっていない可能性がある。このような問題に対して、表3項目9～13に示すフィードバックの機会を設ける。項目9～13は、項目1～8を記述約1ヶ月後に取り組んでもらう。

##### 4.2 期待される効果

内省するプロセスの中で得た学びの「今後の活用場面を考える」ことで、遭遇した時に適切な対処行動が取れるようになることが期待される。また、類推した場面を自己フィードバックすることで、自己が抱える問題点の構造が明確になり、問題点とその解決策をより適切に捉えることにつながり、ある他の場面や事例に対して「このようにしたら良い」「このようになるだろう」という認識を生じるスキーマが効率的に形成されると考える。

#### 5. 今後の展望

今後、本研究で再設計した内省支援ツールの導入に向け、形成的評価やエキスパートレビューを行い、学習転移に関する問題の解決に効果があるのかを検証していく。また、良質な内省活動を展開させるために、学習者間や教育担当者と学習者間の相互作用を促進させる方略も必要だと考えている。それには冒頭にも述べたように現場の教育担当者が抱える問題や時間的問題に対しての改善策も検討していく必要がある。その点に関しても今後検討を行っていきたい。

表3 再設計後の内省支援ツール

6. 1～5を踏まえ、学んだことは何ですか？
7. ①これまでの経験したこと中で、今回学んだことが活かせそうな場面を思い出し記述してください（箇条書き）。
②今回学んだことが活かせるこれから経験するかもしれない場面を想像して記述してください（箇条書き）。
③先輩看護師に学んだことが活かせそうな場面を開き出し、記述してください（箇条書き）。
8. 5. で考えた原因（課題）を解決するために、取り組むべきことを考え記載してください。なお、いつまでに・どこで・誰と・何をどうするのまで、具体的に記載してください。
9. 「学んだことを活かせる場面」として考えた場面に遭遇したか否かをチェックしてください。 □遭遇した    □遭遇しなかった
10. 遭遇した場面で、学んだことが活かせたかを評価してください □活かせた    □活かせなかった
11. 活かせなかつたものに関しては、その原因を分析し記載してください。
12. 以上を踏まえ、学んだことを考え直す必要がある場合は、考え方記載してください。
13. 12. を踏まえ考え方記載した「学んだこと・教訓」（考え方記載が必要がなかつた場合は、以前に記載した「学んだこと・教訓」）を活かすことができる場面を新たに考え方記載してください。

注：項目1-5は表1と同一

#### 参考文献

- 政岡祐輝(2015)どう作り、どう教える？臨床現場のシミュレーション研修. [http://www.igaku-shoin.co.jp/paperDetail.do?id=PA03110\\_02](http://www.igaku-shoin.co.jp/paperDetail.do?id=PA03110_02)(参照 2016.06.28)  
 リー・リンゼイ、ナンシー・バーガー(2016)第7章経験を用いたアプローチ。ライグルース・カーソン・シェルマン(編著)鈴木克明、林雄介監訳インストラクショナルデザインの理論とモデル：共通知識基盤の構築に向けて。北大路書房、京都,pp127-154